

めざす児童生徒像

- ①のちを大切にする子・・・健康に気をつけ、自分も周囲の人も大切にできる子
 ②まなびを深める子・・・主体的に学習に取り組み、学び続けようとする子
 ③がさが輝く子・・・新しいことに進んで挑戦し、粘り強く取り組む子

※児童生徒結果・教員結果・保護者結果

				中間				年度末				
目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	数値・アンケート結果 (%)			※差	
				教員	児童生徒	保護者		教員	児童生徒	保護者		
(学校で設定)	満足感・達成感の向上	教育活動の充実 ①②の各項目の肯定的な評価が80%以上	① 児童は、主体的に学習や特別活動に取り組み、学びをとおして満足感・達成感を感じている。		93	92	1		94	89	5	①②どちらの項目とも、今回も目標値は達成している。学校研究の国語科を中心に、授業のねらいを明確にして積み上げてきたことが要因と考えられる。また、2学期以降は、行事等のねらいを教師が意識して指導してきたことも考えられる。教師のA評価の割合も7割に増加した。 今後は、国語科で身に付けた力を、他教科において活用できるようさらに研究を重ねていく。また、活用している様子や実容が見られた場面では、それを確実に価値づけることを積み重ねていく。また、学習や活動後の振り返りの時間を大切にし、児童に満足感・達成感を実感させることも大切にしていける。
			② 児童が学ぶ楽しさや面白さを感じ、満足感・達成感をもてるような教育活動づくりに努めている。	100				100				
集計												
重点項目	働き方や業務の改善	①②の各項目の肯定的な評価が80%以上	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	71				77				①時間外勤務が80時間を越えている教職員はないが、目標値は達成には至らなかった。担当分掌により、業務内容に偏りがあることは否めない。 ②教職員それぞれが自分の役割を意識して業務にあたっている。各担当内で情報交換しながら進めている。 ①教職員の勤務状況を継続して丁寧に把握し、組織的な業務改善がさらに進められるかを検討する。 ②今後も継続して教職員の自己有用感を高める声かけ等を行っていく。また、学校組織に貢献できる役割を担える人材育成に努める。
			② 学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができている。	100				94				

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果（％）			※差	数値・アンケート結果（％）			※差	達成状況の分析	改善策
				教員				教員					
				児童生徒	保護者			児童生徒	保護者				
小松市共通重点項目	学校研究	①②の平均が 中間・・・８０％以上 年度末・・・８５％以上	① 研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元（授業）構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。	87				100				①②どちらの項目とも、目標値は達成している。100%となった要因は、長期休業中に2学期の教材研究を行う要請訪問を行ったことや、日々の国語科授業に際しても同学年の先生と授業前後に話をすることも日常的になってきたことだと考えられる。	今後は、今年度学んだことをさらに教師全員で共通理解して取り組んでいくことが大切である。
			② 授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。	100				100					
		集計											
	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	①②の児童生徒の割合が 中間・・・８０％以上 年度末・・・９０％以上	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	100	87		-13	100	91		-9	①②⑤は目標値に到達している。③④の目標値は中間評価に比べて向上した。目標値には到達しなかったが、発表場面での価値づけやうまく伝える発表を意図的に取り組む成果が少しずつ表れてきているのではないかと考えられる。 ⑥目標値に到達している。日常的にICTを活用している教員が増加し、それに合わせて児童らもICT機器を授業で活用しているのではないかと考えられる。	③④国語科の研究を中心に、学び合いカードの活用を共通理解・実践し、他教科でも活用していく。また、今後も発表場面での価値づけなどに継続して取り組む。 ⑥さらなるICT活用技能向上のために、授業内でグループワークなどの際に意見を交流する場での使用方法を周知するとともに、効果のあった実践を共有していく。
			② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	87	87		0	100	90		-10		
			③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	100	82		-18	94	86		-8		
			④ 児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えを伝えている。	100	88		-12	100	89		-11		
			⑤ 児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	93	91		-2	100	90		-10		
			⑥ 児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。	87	94		7	93	93		0		
			⑦ 児童は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう組み立てなどを工夫して書いている。	87	88		1	100					
		集計											
	カリキュラム・マネジメント	①②③の各項目の肯定的な評価が８０％以上	① 指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。	93.0				100				①～④どの項目に関しても肯定的な評価が90%を超え目標値は達成した。④に関しては、夏季休業中の松陽校区小・中合同研修会が中止になったが、校内研修会で市内や松陽校区の学力について共有できたことで数値が上昇したと考えられる。	・来年度は、空調工事や150周年記念行事のため、教育課程の変更が必要となる。今年度中にカリキュラムマップやロードマップの変更を行い、来年度スムーズに教育課程を実施していけるようにしていく。
			② 児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。	100.0				93					
			③ 全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。	100.0				100					
			④ 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。(小中連携)	73.0				93					
			集計										
家庭学習	「家で計画を立てて勉強している」「家庭学習で学習用端末を活用する」を８０％以上にする。	① 家庭学習の取組として、学習方法や課題の課し方等を校内で共通理解を図っている。	93	85	87	-8	100	80		-20	①目標値は達成しているが、児童の目標値は下がった。こちらの意図する目標が、児童と共通理解できていなかったのではないかと考えられる。 ②目標値に到達している。ICTを取り入れた家庭学習について全校で目標値を設定したことや、Qubenaの効果的な活用のために問題の精選を行ったことが大幅な数値の上昇につながったのではないかと考えられる。	①家庭学習強化週間にも、「自分で計画を立てて勉強する」の意味について児童と共通理解を図る。 ②引き続き、週2回の端末持ち帰り課題を続けるとともに、Qubena以外の活用事例も周知・共有し、活用の形態を多様化させることでさらなる充実を図る。	
		② 学習用端末を活用した家庭学習に取り組めるよう課題を工夫している。	60	49		-11	100	89		-11			
	集計												